

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	熊本学園大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	クマモトガクエンダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F143310111326
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	熊本県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	商学部 ホスピタリティ・マネジメント学科
	担当教職員名・役職	伊津野 範博：教授、土井 文博：教授、萩原 修子：教授、波積 真理：教授、石貫 文子：准教授、徳永 彩子：准教授、市原猛志：講師、嶋田 文広：講師、教務課職員
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	61
	受入企業等数	22
	受入企業等名	ANDO HOTEL KUMAMOTO (株)ザ・ニューホテル熊本、(株)ニュースカイホテルANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ、(有)松屋本館旅亭松屋本館 S u i z e n j i、有明リゾートシティ(株)ホテルヴェルデ、(有)竜宮ホテル竜宮、(株)J T B熊本支店、(株)日専連ツアーズ、九州産交ツーリズム(株)、ユナイテッドトヨタ熊本(株)、(株)R K Kメディアプランニング、(株)談、総合企画(株)、熊本県観光戦略部観光企画課、公益社団法人熊本県観光連盟、宇土市民会館、公益財団法人熊本県立劇場、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団、社会医療法人寿量会熊本機能病院、医療法人社団愛育会福田病院、大森合資会社大学堂薬局藤崎宮前支店、グランラセーレレガロ
	インターンシップの分類	1.長期（概ね1か月以上）インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類（記述欄）		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、P B L型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年

		大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 その他
	2-5.上記回答内容に関する詳細	春学期（3年次対象）、秋学期（2年次対象）ともに、12単位
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
		5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	2. 成果目標は、大学から研修先に依頼し、研修先側で設定している
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容		
3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している	
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		

3-3-1. 事前学習の内容に関する詳細	4項目に分けて実施しており、①インターンシップの心構え（インターンシップとは、メリット、何を学ぶか、参加準備、業務上の注意、業務日誌、組織の一員として等）、②基本のマナー（挨拶用語、身だしなみ、指示の受け方、報告の仕方、忠告の受け方、メールの書き方、物の受け渡し方、案内の仕方等）、③敬語（丁寧語、尊敬語、謙譲語、接遇用語等）、④電話対応（かけ方、受け方、さまざまな電話対応、電話対応用語、FAXの送受信、電話対応ロールプレイング等）となる。2限分（3時間）で行っている。	
3-3-2. 事後学習の内容に関する詳細	4項目に分けて実施しており、①インターンシップの振り返り（得られた成果や今後の改善点、今後の目標の整理）、②アンケート回答（17問、目的、志望動機、インターンシップ前後の学業へのとらえ方の変化、インターンの効果、満足度、反省点、大学への要望等）、③自己診断（12問、主体性、実行力、課題発見能力、計画力、発信力、状況把握力等）、④インターンシップ研修先へのお礼状作成となる。2限分（3時間）で行っている。	
3-3-3. モニタリングの内容に関する詳細	研修先と担当教員、学生による、インターンシップ前の事前挨拶、期間中の2回の巡回、計3回をを行っている。研修1か月前に行う事前挨拶では研修先からの業務内容、学生からの自己紹介、研修までに勉強しておくべき内容等となる。	
要素④	4-1. インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1. はい
	4-2. 該当する教育的効果を測定する仕組み	1. アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4. その他
	4-2. 「4. その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	学生は業務日誌を毎日記録しており、週1回、教員が内容を確認し、適宜アドバイスを行っている
	4-3. 上記回答内容に関する詳細	
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1. はい
	5-2. 該当する実施期間	1. 連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2. で「1. 連続した5日間以上」を選択した場合	1日（8時間勤務＋2時間業務日誌）×48日＝480時間（週4日）の3か月間で実施、それ以外に、事前、事後学習として各1日。
	5-2. で「2. 事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2. で「3. 複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2. 「4. その他」の実施期間の内容	
5-3. 上記回答内容に関する詳細		
	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1. はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	1. 企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 3. 企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている

要素 ⑥		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		6.企業と協働して、P D C Aを実施している
		7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	毎年、企業と大学で、インターンシップの意見交換会を開催し、企業側の要望をを踏まえ、事前、事後学習のプログラムに反映している。（意見交換会は、令和2年度・令和3年度、新型コロナウイルスの影響により中止。）
	6-3.上記回答内容に関する詳細	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu.kumagaku.ac.jp/
問い合わせ先	大学等名	熊本学園大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	木村 桂
	電話番号	096-364-5161
	メールアドレス	inews@kumagaku.ac.jp